

平成29年版
歯科衛生士国家試験出題基準

一般財団法人 歯科医療振興財団 編

目次

歯科衛生士国家試験出題基準について
出題基準使用上の注意事項
歯科衛生士国家試験制度改善検討部会報告書

一	人体（歯・口腔を除く。）の構造と機能	1
Ⅰ	人体の構造	3
Ⅱ	人体の機能・構成成分	6
二	歯・口腔の構造と機能	11
Ⅰ	歯・口腔の構造	13
Ⅱ	歯・口腔の機能・組成	15
三	疾病の成り立ち及び回復過程の促進	17
Ⅰ	病因と病態	19
Ⅱ	感染と免疫	22
Ⅲ	生体と薬物	26
四	歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み	29
Ⅰ	総論	31
Ⅱ	口腔清掃	32
Ⅲ	う蝕の予防	33
Ⅳ	歯周病の予防	34
Ⅴ	その他の歯科疾患の予防	35
Ⅵ	歯科疾患の疫学と歯科保健統計	36
Ⅶ	地域歯科保健活動	37
Ⅷ	環境・社会と健康	39
Ⅸ	保健・医療・福祉の制度	42
五	歯科衛生士概論	45
Ⅰ	歯科衛生士とその業務	47
六	臨床歯科医学	49
Ⅰ	臨床歯科総論	51
Ⅱ	歯・歯髄・歯周組織の疾患と治療	53
Ⅲ	歯の欠損と治療	56
Ⅳ	顎・口腔領域の疾患と治療	57
Ⅴ	不正咬合と治療	60
Ⅵ	小児の理解と歯科治療	61
Ⅶ	高齢者の理解と歯科治療	63
Ⅷ	障害児者の理解と歯科治療	65
七	歯科予防処置論	67
Ⅰ	総論	69
Ⅱ	歯周病予防処置	69

Ⅲ	う蝕予防処置	71
八	歯科保健指導論	73
Ⅰ	総論	75
Ⅱ	情報収集	76
Ⅲ	口腔衛生管理	77
Ⅳ	生活習慣指導	78
Ⅴ	食生活指導	78
Ⅵ	口腔機能管理	80
Ⅶ	健康教育	81
九	歯科診療補助論	83
Ⅰ	総論	85
Ⅱ	主要歯科材料の種類と取扱いと管理	86
Ⅲ	保存治療時の診療補助	88
Ⅳ	補綴治療時の診療補助	89
Ⅴ	口腔外科治療時の診療補助	90
Ⅵ	矯正歯科治療時の診療補助	90
Ⅶ	小児歯科治療時の診療補助	91
Ⅷ	高齢者治療時の診療補助	91
Ⅸ	障害児者治療時の診療補助	92
Ⅹ	エックス線写真撮影時の診療補助	92
Ⅺ	救命救急処置	93
	索引	94

歯科衛生士国家試験出題基準について

1 歯科衛生士国家試験出題基準見直しの経緯

平成 23 年 3 月に歯科衛生士国家試験出題基準を見直してから数年経過しているため、平成 27 年度歯科衛生士試験企画評価委員会の提言を踏まえ、歯科衛生士国家試験制度改善検討部会を設置した。そこでの出題基準の改定の方方向性を踏まえて歯科衛生士国家試験出題基準改定委員会を設置し、平成 28 年度中に出題基準の改定を行うことにした。

2 歯科衛生士国家試験出題基準改定委員会

平成 28 年 8 月 30 日から平成 28 年 11 月 18 日までの間、歯科衛生士国家試験出題基準改定委員会を 3 回開催し、本委員会において見直しを行った。

この出題基準は、第 27 回歯科衛生士国家試験（平成 29 年度）から適用する。

3 歯科衛生士国家試験出題基準の活用方法

（1） 歯科衛生士国家試験は歯科衛生士法第 10 条に基づいて、「歯科衛生士として必要な知識及び技能について」行われる。必要な知識及び技能とは、歯及び口腔の疾患の予防処置、歯科診療の補助並びに歯科保健指導を行うために必要なものである。

この内容を具体的な項目によって示したのが、歯科衛生士国家試験出題基準である。

歯科衛生士国家試験の妥当な内容、範囲及び適切な水準等を確保するため、歯科衛生士試験委員はこの基準を踏まえて出題する。ただし、出題内容に関する最終的な判断は歯科衛生士試験委員会に委ねられている。

したがって、歯科衛生士国家試験出題基準は、歯科衛生士学校養成所が行う教育内容のすべてを網羅するものではなく、教育の在り方を拘束するものではない。

（2） 歯科衛生士法施行規則第 11 条に基づく試験科目は次のとおりである。

- 一 人体（歯・口腔を除く。）の構造と機能
- 二 歯・口腔の構造と機能
- 三 疾病の成り立ち及び回復過程の促進
- 四 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み
- 五 歯科衛生士概論
- 六 臨床歯科医学
- 七 歯科予防処置論
- 八 歯科保健指導論
- 九 歯科診療補助論

（3） 本基準は、歯科衛生士試験委員が試験問題を作成するに際し、準拠する出題の基準として、その範囲を科目別、項目別に示したものである。

(4) 本基準の各科目の名称及び各科目の出題方針は、歯科衛生士学校養成所指定規則の別表及び歯科衛生士養成所指導要領に掲げられている教育内容に必ずしも一致するものではなく、教授内容のすべてを網羅したものでもない。

(5) 本基準では、「人体（歯・口腔を除く。）の構造と機能」、「歯・口腔の構造と機能」、「疾病の成り立ち及び回復過程の促進」及び「歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み」は主として知識の理解を、また、「歯科衛生士概論」、「臨床歯科医学」、「歯科予防処置論」、「歯科保健指導論」及び「歯科診療補助論」は知識、技能及び対応に関連する事項の理解をそれぞれ出題できるようにしている。

なお、栄養指導及び口腔機能管理に関する問題は、出題の配分を考慮し「歯科保健指導論」からまとめて出題することとしている。

(6) 本基準が正しく理解され、歯科衛生士試験委員によって活用されることにより、歯科衛生士国家試験が妥当な出題範囲と適切水準で行われることを期待する。

歯科衛生士国家試験出題基準改定委員会委員（平成 28 年 8 月～平成 29 年 3 月）

委員長 川 口 陽 子（東京医科歯科大学大学院）
副委員長 升 井 一 朗（福岡医療短期大学）
委員 合 場 千佳子（日本歯科大学東京短期大学）
天 野 修（明海大学歯学部）
荒 川 浩 久（神奈川歯科大学）
井 上 美津子（昭和大学歯学部）
柏 俣 正 典（朝日大学歯学部）
片 倉 伸 郎（愛知学院大学歯学部）
高 阪 利 美（愛知学院大学短期大学部）
後 藤 滋 巳（愛知学院大学歯学部）
佐 藤 聡（日本歯科大学新潟生命歯学部）
白 鳥 たかみ（東京歯科大学歯科衛生士専門学校）
豊 澤 悟（大阪大学大学院）
浜 田 信 城（神奈川歯科大学）
日野出 大 輔（徳島大学大学院）
弘 中 祥 司（昭和大学歯学部）
松 村 英 雄（日本大学歯学部）
森 戸 光 彦（鶴見大学歯学部）
吉 田 直 美（千葉県立保健医療大学）

（五十音順）

出題基準使用上の注意事項

1 本基準は歯科衛生士国家試験の出題に当たり、各科目ごとの範囲を示したものであって、出題の方法については触れていない。

2 本基準においては、各科目ごとに出题方針・出題する事項の概要を整理して示している。

3 本基準においては、各科目ごとに大項目、小項目に分類している。

(1) 範囲

I、II、III……の番号付して整理した。

(2) 大項目

総論的あるいは概括的な知識について整理したもので、1、2、3…の番号を付した。

(3) 小項目

大項目に示される範囲内の各論的知識を整理したもので、A、B、C…の文字を付した。

なお、小項目で、具体的に内容を示す必要がある場合は、a、b、c…の文字を付して整理した。

4 その他

(1) 同一事象に対し異なる表現がある場合には、括弧書き等によってどちらも使用可能とした。試験委員会の判断で、括弧内・外の語を適宜使用できる。なお、括弧は以下のルールに基づいている。

() 直前の語の説明 例；有床義歯（全部床義歯、局部床義歯）

< > 直前の語の同義語 例；国際生活機能分類（ICF）

[] 新旧語の並列 例；プロビジョナルレストレーション [テンポラリークラウン]

{ } 省略しても意味または分類が変わらない語 例；非侵襲性 {暫間的} 間接覆髄法

歯科衛生士国家試験制度改善検討部会報告書（平成 28 年 3 月 29 日）

I はじめに

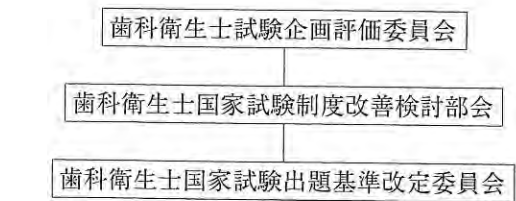
歯科衛生士国家試験は、日本の歯科保健医療ならびに福祉の各分野での歯科衛生士業務の質の担保を確保するうえで極めて重要な試験である。平成 4 年 3 月 1 日に国家試験として第 1 回が実施されて以降、時代の要請に基づきながら変遷をし、直近では平成 22 年 6 月 2 日の歯科衛生士企画評価委員会報告書に従って試験問題数等を改善したところである。

一方、歯科保健医療等を取り巻く環境は大きな変革期を迎えていることから、歯科衛生士の資質向上においても国家試験の改訂が必要になっている。歯科医師国家試験も概ね 4 年に 1 度改善を図っていることから、歯科衛生士国家試験についても同様な改善が必要と思慮される。

今回、平成 27 年 6 月 9 日開催の歯科衛生士試験企画評価委員会の提言も踏まえ、歯科衛生士国家試験制度改善検討部会を設置し、改善の方向性を明らかにするとともに、その方向に従って歯科衛生士国家試験出題基準を改定する委員会を設置して時代の要請に応えることとする。

※過去の「出題基準見直し検討委員会」

第 1 回	平成 10. 7.1 ～ 11.3.31	第 9 回試験～
第 2 回	平成 14. 9.2 ～ 15.3.31	第 13 回試験～
第 3 回	平成 18.11.1 ～ 19.3.31	第 17 回試験～
第 4 回	平成 22. 7.1 ～ 23.3.31	第 21 回試験～



歯科衛生士国家試験改定に関する委員会の位置づけ

II 歯科衛生士国家試験問題について

(1) 出題方法等

出題総数については現行の数を維持し、領域ごとに出題数を規定することによって問題の質を担保する観点から現行の 220 問とする。

(2) 出題形式

「4 肢択 1 問題」「4 肢択 2 問題」のいずれかで出題し、その割合については試験委員会において、試験ごとに合格率の安定性を保つ観点から、問題全体の難易度や内容を勘案して決定する。

(3) 状況設定問題

臨床に関する出題においては状況設定問題の出題についても一定の出題数を維持するように配慮する。

III 出題基準

時代の要請に応える歯科衛生士を確保する観点から、下記の出題についてさらなる充実を図り、資質向上を促進していく必要がある。

- (1) 高齢化等による疾病構造の変化に伴う歯科診療の変化に関連して、歯科衛生士として必要な高齢者や在宅・施設介護や病棟での対応に関する出題
- (2) 地域包括ケアシステムの推進や多職種連携等に関する出題
- (3) 口腔機能の維持向上や摂食機能障害への対応に関する出題
- (4) 医療安全や職業倫理等に関する出題

その他、保健医療介護の領域で歯科衛生士として必要不可欠な内容について出題する。

歯科衛生士国家試験制度改善検討部会委員

委員長	石 井 拓 男（東京歯科大学）
委 員	遠 藤 圭 子（全国歯科衛生士教育協議会副会長）
	久保山 裕 子（日本歯科衛生士会副会長）
	小 林 慶 太（日本歯科医師会常務理事）
	武 井 典 子（日本歯科衛生士会会長）
	眞 木 吉 信（全国歯科衛生士教育協議会会長）
	森 田 学（岡山大学大学院）

（五十音順）

一 人体（歯・口腔を除く。）の構造と機能

（出題方針）

- 1 人体の構造・組織に関する基本的知識について出題する。
- 2 人体の機能、構成成分に関する基本的知識について出題する。

I 人体の構造

大 項 目	小 項 目	備 考
1 細胞・組織・器官	A 人体の基本構成 B 器官 C 組織 a 上皮組織 b 支持組織 c 筋組織 d 神経組織 D 細胞 a 細胞膜 b 細胞内小器官 c 細胞分裂 E 遺伝子と遺伝情報	
2 循環器系	A 心臓 a 心筋 b 構造 B 血管系 a 動脈 b 静脈 C リンパ系 a リンパ循環 b リンパ管とリンパ節	頭頸部の血管系は「歯・口腔の構造と機能」で出題する 頭頸部のリンパ系は「歯・口腔の構造と機能」で出題する
3 呼吸器系	A 呼吸器の構造 a 鼻腔・副鼻腔 b 咽頭・喉頭 c 気管・気管支 d 肺	副鼻腔は「歯・口腔の構造と機能で出題」する 「歯・口腔の構造と機能」で出題する

大 項 目	小 項 目	備 考
4 運動器系	A 骨格 a 骨の形態と構造 b 骨の形成・吸収・改造〈リモデリング〉 c 頭蓋 d 脊柱 e 胸郭 f 上肢・下肢 B 骨の連結 C 筋 a 筋の形状 b 筋の起始・停止 c 骨格筋	軟骨内骨化・膜内骨化を含む
5 神経系	A 神経組織 a 神経細胞〈ニューロン〉 b 神経膠細胞 B 中枢神経系 a 脳 b 脊髄 C 末梢神経系 a 脳神経 b 脊髄神経 c 自律神経系	三叉、顔面、舌咽、迷走、舌下神経は「歯・口腔の構造と機能」で出題する 頭頸部の自律神経系は「歯・口腔の構造と機能」で出題する
6 感覚器系	A 特殊感覚器の構造 a 視覚器 b 聴覚器 c 平衡器官 d 嗅覚器 e 味覚器 B 一般体性感覚の構造	舌乳頭の味蕾は「歯・口腔の構造と機能」で出題する 皮膚感覚受容器と深部感覚受容器を含む

大 項 目	小 項 目	備 考
7 消化器系	A 消化器系の構造 a 口腔 b 咽頭 c 食道 d 胃 e 小腸 f 大腸 g 肝臓・胆嚢 h 膵臓	「歯・口腔の構造と機能」で出題する 「歯・口腔の構造と機能」で出題する
8 泌尿器系	A 泌尿器系の構造 a 腎臓 b 尿管・膀胱・尿道	
9 内分泌系	A 内分泌器官の構造	
10 生殖器系	A 女性生殖器系の構造 B 男性生殖器系の構造	
11 全身	A 体表 a 人体の部位と区分 b 皮膚と粘膜の構造 B 断面と方向用語 C 姿勢	区分を含む 皮膚付属器を含む 皮膚感覚受容器は感覚器系で出題する 体位を含む
12 発生	A 受精と着床 B 胚葉 C 胎児の発育	多能性幹細胞を含む
13 加齢・老化	A 器官・組織の変化	

II 人体の機能・構成成分

大 項 目	小 項 目	備 考
1 人体の構成成分	A 体液と恒常性維持 B 無機質 C 有機質 a タンパク質の構造 b 糖質の構造 c 脂質の構造 d 核酸の構造	
2 細胞	A 細胞の機能 a 細胞膜 b 細胞内小器官 B 遺伝子とタンパク質合成 C 細胞分裂 D エネルギー代謝 E 物質代謝 a タンパク質の代謝 b 糖質の代謝 c 脂質の代謝 F 酵素の種類と作用	補酵素を含む
3 血液	A 血液の組成 a 赤血球 b 白血球 c 血小板 d 血漿 B 血液型と輸血 a 血液型と抗原抗体反応 b 輸血 C 止血 a 血液凝固 b 線溶系 c 出血傾向	

大 項 目	小 項 目	備 考
4 循環	A 血液循環 a 心臓 b 血管 c 血圧 d 循環調節 B リンパ循環	刺激伝導系、心電図を含む
5 呼吸	A 外呼吸と内呼吸 B 換気 a 吸息と呼息 b 肺気量 C ガス交換 D 血液ガスの運搬 a 酸素の運搬 b 二酸化炭素の運搬 E 呼吸の調節	呼吸筋の働きを含む
6 筋	A 骨格筋 B 心筋 C 平滑筋 D 筋の収縮	
7 神経	A 神経細胞〈ニューロン〉の機能 a 活動電位の発生 b 興奮の伝導 c シナプス伝達 B 中枢神経系 C 末梢神経系 a 体性神経系〈脳・脊髄神経〉 b 自律神経系〈交感・副交感神経〉 D 神経伝導路	反射、上行性・下行性伝導路を含む

大 項 目	小 項 目	備 考
8 感覚	A 感覚の基本的性質 B 特殊感覚 a 視覚 b 聴覚 c 平衡感覚 d 嗅覚 e 味覚 C 体性感覚・内臓感覚 a 皮膚感覚 b 深部感覚 c 内臓感覚	「歯・口腔の構造と機能」で出題する
9 消化吸収	A 摂食嚥下 B 胃における消化 a 胃液 b 胃の運動 C 腸における消化と吸収 a 腸液 b 胆汁 c 腸の運動 d 小腸における消化と吸収 D 消化管ホルモン E 排便	「歯・口腔の構造と機能」で出題する
10 排尿	A 尿の生成と体液の調節 B 排尿の仕組み	
11 内分泌	A ホルモン a 恒常性維持 b 分泌調節 B 内分泌器官の機能	

大 項 目	小 項 目	備 考
12 体温	A 体温の調節 a 体熱の産生 b 体熱の放散 c 体温調節 B 体温の変動 a 体温の生理的変動 b 発熱・解熱	発汗を含む
13 老化	A 老化の機序 B 老化に伴う機能変化	

二 歯・口腔の構造と機能

(出題方針)

- 1 歯・口腔の構造およびその周囲組織に関する基本的知識を出題する。
- 2 歯・口腔の機能、組成に関する基本的知識を出題する。

I 歯・口腔の構造

[illegible]

II 歯・口腔の機能・組成

14

三 疾病の成り立ち及び回復過程の促進

(出題方針)

- 1 病因と病態、感染と免疫および生体と薬物に関する基本的知識について出題する。
- 2 口腔領域の先天異常、嚢胞および腫瘍は「臨床歯科医学」においても出題する。
- 3 歯科臨床に用いる薬剤は「臨床歯科医学」、「歯科診療補助論」においても出題する。

I 病因と病態

大 項 目	小 項 目	備 考
1 病因論	A 内因 B 外因	
2 遺伝性疾患と先天異常	A 染色体異常 B 先天異常	
3 循環障害	A 全身の循環障害 B 局所の循環障害 a 循環血液量の障害 b 閉塞性の障害	
4 細胞・組織の傷害	A 変性 B 萎縮 C 細胞死 a 壊死〈ネクロシス〉 b アポトーシス	
5 増殖と修復	A 肥大と過形成（増生） B 化生 C 再生 D 創傷の治癒と異物の処理 E 肉芽組織と器質化	
6 炎症	A 炎症の概念と徴候 B 炎症の原因 C 炎症の機序と病態 D 炎症の分類 a 急性炎症 b 慢性炎症 c 肉芽腫性炎	

三 疾病の成り立ち及び回復過程の促進

大 項 目	小 項 目	備 考
7 免疫異常と移植	A アレルギー反応〈過敏症〉 B 自己免疫疾患 C 免疫不全症候群 D 移植免疫	
8 腫瘍	A 腫瘍の概念と疫学 B 腫瘍の原因と発生・進展の機序 C 腫瘍の組織学的特徴 D 腫瘍の分類 a 上皮性腫瘍・非上皮性腫瘍 b 良性腫瘍・悪性腫瘍 c 前癌病変	
9 歯の発育異常	A 大きさの異常 B 形の異常 C 数の異常 D 構造の異常 E 色の異常 F 萌出の異常	
10 う蝕	A エナメル質う蝕 B 象牙質う蝕 C セメント質う蝕	
11 象牙質、セメント質の増生	A 象牙質の増生と象牙質粒 a 第二象牙質 b 第三象牙質 c 象牙粒 B セメント質の増生とセメント粒	

三 疾病の成り立ち及び回復過程の促進

大 項 目	小 項 目	備 考
12 歯髓の病変	A 歯髓充血 B 歯髓の変性 C 歯髓壊死 D 歯髓炎の分類と特徴 a 急性漿液性歯髓炎 b 急性化膿性歯髓炎 c 慢性潰瘍性歯髓炎 d 慢性増殖性歯髓炎 e 上行性歯髓炎 E 歯髓壞疽	
13 根尖部歯周組織の病変	A 根尖性歯周炎の分類と特徴 a 急性根尖性歯周炎 b 慢性根尖性歯周炎	
14 歯周組織の病変	A 歯周病の分類と特徴 a 歯肉病変 b 歯周炎 c 壊死性歯周疾患 d 歯周組織の膿瘍 e 歯周-歯内病変 f 歯肉退縮 g 咬合性外傷	
15 口腔創傷の治癒	A 口腔粘膜傷の治癒 B 抜歯創の治癒	
16 口腔粘膜の病変	A 水疱性病変 B 潰瘍性病変 C 白色病変 D 赤色病変 E 色素性病変	

大 項 目	小 項 目	備 考
17 顎骨の病変	A 炎症性疾患 B 嚢胞 a 歯原性嚢胞 b 非歯原性嚢胞 C 腫瘍・腫瘍類似病変 a 歯原性腫瘍 b 非歯原性腫瘍 c 腫瘍類似病変	
18 唾液腺の病変	A 炎症性疾患 B 唾石症 C 粘液嚢胞 D 唾液腺腫瘍	

II 感染と免疫

大 項 目	小 項 目	備 考
1 一般性状	A 細菌 a 形態 b 構造 c 代謝 d 増殖 B ウイルス a 構造 b 増殖	
2 観察方法	A 培養法 a 細菌の培養法 b 細菌の培地 c ウイルスの培養法 B 細菌の顕微鏡観察法	

大 項 目	小 項 目	備 考
3 感染	A 微生物の病原性 a 毒素 b 菌体表層物質 c 組織破壊酵素 d 内因性・外因性感染 B 宿主の抵抗性 a 体液中の抗菌物質 b 食細胞 c 炎症反応 C 感染の成立 a 感染と発症 b 不顕性感染 D 感染経路 a 直接感染 b 間接感染 E 感染の種類 a 日和見感染 b 内因感染 c 院内感染	
4 免疫	A 免疫の種類 a 自然免疫 b 獲得免疫 c 能動免疫 d 受動免疫 e 自己免疫（免疫寛容） f 免疫不全 g 移植免疫 B 免疫機構 a 免疫関連臓器 b 免疫担当細胞 c 抗原 d 抗体 e サイトカイン	体液性免疫、細胞性免疫を含む

大 項 目	小 項 目	備 考
4 免疫	C 抗原抗体反応 a 凝集反応 b 沈降反応 c 補体結合反応 d 毒素中和反応 e ウイルス中和反応 D アレルギー E 補体	
5 化学療法	A 化学療法薬 a 作用機序 b 抗菌スペクトル c 薬剤耐性 d 副作用 e ウイルスに対する化学療法	
6 病原微生物とプリオン	A グラム陽性球菌 B グラム陰性球菌 C グラム陽性桿菌 D グラム陰性桿菌 E スピロヘータ F リケッチア G クラミジア H ウイルス a DNA ウイルス b RNA ウイルス I 真菌 J 原虫 K プリオン	

大 項 目	小 項 目	備 考
7 口腔環境と常在微生物	A 微生物と口腔環境 a 唾液 b 歯肉溝液 B 口腔常在微生物 a 口腔内レンサ球菌 b 歯垢微生物叢 c 唾液微生物叢 d 舌微生物叢 e 口腔粘膜微生物叢 f 歯肉溝微生物叢	
8 バイオフィルムとしてのプラーク〈歯垢〉	A 形成機序 B バイオフィルムとバイオフィルム感染症	
9 消毒・滅菌	A 定義 B 消毒法 C 滅菌法	具体的方法は「歯科診療補助論」で出題する
10 う蝕	A う蝕原因菌	
11 歯周病	A 歯周病原菌	

Ⅲ 生体と薬物

大 項 目	小 項 目	備 考
1 医療と薬物	A 薬物療法の種類 B 薬理作用の基本形式 C 薬理作用の分類	
2 身体と薬物	A 薬物の作用機序 B 薬物の適用方法 C 薬物動態 a 吸収 b 分布 c 代謝 d 排泄 e 薬物動態パラメーター D 薬理作用に影響を与える因子 a 薬物の用量と作用 b 生体の感受性 E 薬物の併用による相互作用 a 協力作用・拮抗作用 F 薬物の連用 a 蓄積 b 耐性 c 依存 G ライフステージと薬物 a 小児への薬物投与 b 高齢者への薬物投与 c 妊婦への薬物投与 H 薬物の副作用・有害作用	生物学的半減期、バイオアベイラビリティー〈生物学的利用能〉、クリアランスを含む プラセボ効果を含む 年齢、遺伝的素因など

大 項 目	小 項 目	備 考
3 医薬品の分類	A 医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律〈医薬品医療機器法〉 B 日本薬局方および局方医薬品 C 毒薬、劇薬 D 麻薬、向精神薬、覚せい剤 E 医薬部外品、化粧品	
4 薬物の取扱い	A 処方せん〈箋〉 B 保存方法 C 剤形	
5 中枢神経系作用薬物	A 全身麻酔薬 a 吸入麻酔薬 b 静脈麻酔薬 B 催眠薬 C 向精神薬 a 抗精神病薬 b 抗不安薬 c 抗うつ薬・抗躁薬 D 抗けいれん薬〈抗てんかん薬〉 E 抗パーキンソン病薬 F 中枢神経興奮薬	
6 末梢神経系作用薬物	A 神経伝達物質 B 自律神経系作用薬	
7 局所麻酔薬	A 局所麻酔薬 B 血管収縮薬の添加	
8 痛みと薬物	A 鎮痛薬 a 麻薬性鎮痛薬 b 非麻薬性鎮痛薬・麻薬拮抗薬 c 解熱性鎮痛薬	

大 項 目	小 項 目	備 考
9 抗炎症薬	A ステロイド性抗炎症薬 B 非ステロイド性抗炎症薬 C 抗ヒスタミン薬	
10 呼吸・循環と薬物	A 呼吸器系作用薬 B 循環器系作用薬	抗高血圧薬を含む
11 血液と薬物	A 局所性止血薬 B 全身性止血薬 C 抗血栓薬 a 抗凝固薬 b 抗血小板薬	
12 感染と薬物	A 消毒薬 B 抗菌薬	抗真菌薬・抗ウイルス薬を含む

四 歯・口腔の健康と予防に関わる 人間と社会の仕組み

(出題方針)

- 1 歯と口腔の疾病異常の予防と健康増進、疫学と歯科保健統計および地域歯科保健活動に関する基本的知識について出題する。
- 2 人々をとりまく環境下で、また、社会生活・社会制度の下で、健康を保持増進するために必要となる基本的知識について出題する。
- 3 歯科衛生士として必要となる保健・医療・福祉の関連法規と制度について出題する。

I 総論

大 項 目	小 項 目	備 考
1 概要	A 口腔保健と健康 B 歯科疾患の予防	第一次予防、第二次予防、第三次予防を含む
2 歯・口腔の機能	A 咀嚼 B 摂食嚥下 C 発音・構音 D 味覚、触覚、冷温覚	
3 歯・口腔の発育と変化	A 歯・口腔の発生と成長発育 a 歯の形成 b 歯の萌出、交換 B 歯の喪失	
4 口腔環境	A 歯と口腔環境 a 唾液の作用 b ペリクルの形成 c エナメル質の成熟 d 口腔内常在微生物	
5 歯・口腔の付着物、沈着物	A 歯の付着物、沈着物 B 舌苔	

Ⅱ 口腔清掃

大 項 目	小 項 目	備 考
1 概要	A プラークコントロールの意義 B 口腔清掃の種類 a 口腔の自浄作用(自然的清掃法) b 機械的清掃法 c 化学的清掃法	セルフケア、プロフェッショナルケアを含む
2 口腔清掃用具	A 歯ブラシの構成と種類 B 歯間部清掃用具 C その他の清掃用具	
3 歯磨剤	A 分類と剤形 B 基本成分と配合目的 C 薬効(薬用、有効、特殊)成分と配合目的	
4 洗口剤	A 組成と配合目的 B 薬効(薬用、有効、特殊)成分と配合目的	保湿剤を含む
5 ブラッシング	A ブラッシング法と特徴 B ブラッシングの有害作用 C 歯垢染色剤 D 舌清掃の方法	具体的な方法や術式等は「歯科保健指導論」で出題する

Ⅲ う蝕の予防

大 項 目	小 項 目	備 考
1 基礎知識	A う蝕の有病状況 B う蝕の発生要因と機序 C 初期う蝕と再石灰化 D う蝕の進行と症状 E う蝕のリスク評価 a う蝕の活動性 b う蝕活動性試験	
2 予防方法	A 第一次予防 a プラークコントロール b 甘味飲食物に対する指導 c 生活習慣の改善 d フッ化物の応用 e う蝕予防処置 f 歯・口腔の健康診査、保健指導、リコール B 第二次予防 a う蝕の検診 b 初期う蝕の進行抑制 c う蝕の治療 C 第三次予防 a 形態と機能の回復 D セルフケア、プロフェッショナルケア、パブリックヘルスケア	術式は「歯科予防処置論」で出題する

大 項 目	小 項 目	備 考
3 フッ化物によるう蝕予防	A フッ化物の分布 B フッ化物の摂取と代謝 C フッ化物の毒性 D う蝕予防機序 E う蝕予防への全身応用 a 水道水フッロリデーション 〈水道水フッ化物濃度調整〉 b 飲食物へのフッ化物添加 c フッ化物補充剤（錠剤、液剤） F う蝕予防への局所応用 a フッ化物配合歯磨剤 b フッ化物洗口 c フッ化物歯面塗布 G う蝕予防効果	フッ化物局所応用の術式は「歯科 予防処置論」で出題する う蝕抑制率の求め方についても出 題する

IV 歯周病の予防

大 項 目	小 項 目	備 考
1 基礎知識	A 歯周病の有病状況 B 歯周病の分類 C 歯周病の発生要因と機序 D 歯周病の進行と症状 E 歯周病のリスク評価 F 歯周病と全身との関連	

大 項 目	小 項 目	備 考
2 予防方法	A 第一次予防 a プラークコントロール b 歯周病の予防処置 c 歯・口腔の健康診査、保健指 導、リコール B 第二次予防 a 歯周病の検診 b 歯周基本治療 c 歯周外科治療 C 第三次予防 a 口腔機能回復治療 D セルフケア、プロフェッショナル ケア、パブリックヘルスケア	術式は「歯科予防処置論」で出題 する

V その他の歯科疾患の予防

大 項 目	小 項 目	備 考
1 不正咬合の予防	A 不正咬合の原因と種類 B 不正咬合の影響 C 不正咬合の予防方法	
2 口臭の予防	A 口臭の原因と分類 B 口臭の検査 C 口臭の予防方法	
3 その他の歯科疾患・異常 の予防	A 歯の損耗〈Tooth Wear〉 B 歯・口腔の外傷 C 顎関節症 D 口腔癌 E 着色歯・変色歯 F その他	咬耗、摩耗、酸蝕 マウスガードを含む 歯の形成不全、口内炎、口腔乾燥症、 味覚異常など

VI 歯科疾患の疫学と歯科保健統計

大 項 目	小 項 目	備 考
1 歯科疾患の指標	A う蝕に関する指標 a う蝕経験の指標 b その他の指標 B 歯周病に関する指標 C 口腔清掃状態に関する指標 D 歯のフッ素症に関する指標 E 不正咬合に関する指標	
2 歯科疾患の疫学	A う蝕の疫学 a 宿主要因との関連 b 環境要因との関連 c 病因との関連 d 時間要因との関連 B 歯周病の疫学 a 宿主要因との関連 b 環境要因との関連 c 病因との関連 C 口腔の悪性新生物の疫学	
3 衛生統計の基礎	A 疫学調査の進め方 a 母集団と標本 b 標本調査 c スクリーニング検査 B データのまとめ方 a データの尺度 b 代表値と散布度 c 度数分布 d 単純集計、クロス集計 C データの分析法 a 相関 b 推定と検定	

大 項 目	小 項 目	備 考
	D 検定結果の解釈 a 標本平均値の差の検定 b カイ二乗検定	
4 歯科保健統計	A 国家統計調査の分類 B 歯科疾患実態調査 C 国民健康・栄養調査 D 学校保健統計調査 E 患者調査	歯科保健に関する調査について出題する

VII 地域歯科保健活動

大 項 目	小 項 目	備 考
1 基礎知識	A 地域口腔保健活動の意義 B ライフステージ別の口腔保健の課題 C 地域口腔保健活動の進め方 D 口腔保健活動の目標 E 対象と活動分野 F 口腔保健教育 G 歯・口腔の健康診査と事後措置 H 地域特性の把握 I ヘルスプロモーション J 歯科衛生士の役割	
2 地域歯科保健	A 市町村と都道府県の歯科保健業務 B 保健所の歯科保健業務 C 保健所と市町村との連携 D 8020 運動	

大 項 目	小 項 目	備 考
2 地域歯科保健	E 健康日本 21 F 健康増進法	歯の健康に関連する項目について 出題する 歯の健康に関連する項目について 出題する
3 母子歯科保健	A 母子歯科保健の意義 B 妊産婦の口腔保健 C 乳幼児の口腔保健 D 妊産婦・乳幼児の歯科健康診 査と保健指導 E 1 歳 6 か月児歯科健康診査と 保健指導 F 3 歳児歯科健康診査と保健指導	
4 学校歯科保健	A 歯・口腔の保健教育と保健指導 B 歯・口腔の健康診断と事後措置 C 学校歯科医	特別支援教育での保健指導を含む
5 産業歯科保健 (職域口腔保健)	A 職業性歯科疾患 B 産業歯科保健活動 a 産業歯科医 b 歯科健康診断 C 職域での口腔保健管理	
6 成人・高齢者・要介護者・ 障害者歯科保健	A 成人・高齢者の歯科保健に関連 する法律等に基づく保健事業 a 口腔の健康教育 b 口腔の健康相談 c 歯周疾患検診 d 介護予防 e 口腔保健に関する訪問指導 B 要介護者・障害者への歯科保健	居宅療養管理指導を含む 介護保険法、介護予防を含む
7 災害時の歯科保健	A 大規模災害時の保健医療対策 B 被災地での歯科保健活動	

大 項 目	小 項 目	備 考
8 国際歯科保健	A 国際協力と関連機関 B 世界の口腔保健の現状 C 開発途上国への歯科保健医療 協力	

Ⅷ 環境・社会と健康

大 項 目	小 項 目	備 考
1 概要	A 健康の概念と保持増進 B 予防の考え方と適用 C 生涯を通じた保健・福祉 a 生活習慣と健康・長寿 b ヘルスプロモーション c QOL d ノーマライゼーション e 国際生活機能分類〈ICF〉 D 健康づくり運動の変遷と現状	第一次予防、第二次予防、第三次 予防 バリアフリー、ユニバーサルデザ インを含む
2 人口	A 人口静態統計 B 人口動態統計 C 平均余命、平均寿命、健康寿命	人口の少子化・高齢化を含む 死亡原因を含む
3 環境と健康	A 地球環境と健康 B 生活環境と健康 a 空気と水 b 温熱環境および気候 c 環境への適応と居住環境 d 放射線 C 環境保全・公害防止 D 廃棄物処理	

大 項 目	小 項 目	備 考
4 疫学	A 疫学の定義 B 疾病・異常の発生要因 C 健康・疾病・異常の指標 D 疫学の研究方法 a 観察研究 b 介入研究	記述疫学、分析疫学を含む
5 感染症	A 感染症の成り立ちと予防 a 感染源、感染経路、宿主の感受性 b 感染源対策、感染経路対策、感受性対策 B 主要感染症の動向と予防 C 院内感染とその防止	
6 生活習慣と生活習慣病	A ライフスタイル B 生活習慣病と非感染性疾患〈NCDs〉 a 悪性新生物、心疾患、脳血管疾患、糖尿病 C 生活習慣病の予防	
7 食品と健康	A 食中毒とその予防 B 食品の安全	
8 地域保健	A 地域社会と地域保健 B 地域保健の対象と活動 C 地域保健の組織と役割 D 保健所 E 市町村保健センター F 医療圏と保健医療計画 G 地域保健活動の進め方	

大 項 目	小 項 目	備 考
9 母子保健	A 母子保健の意義と特徴 B 母子保健活動の現状 C 母子保健対策 a 母子健康手帳 b 母子健康教育 c 健康診査と保健指導	
10 学校保健	A 学校保健安全の意義と特徴 B 保健教育、保健管理、組織活動 C 学校保健活動の現状 D 学校保健安全対策	
11 成人・高齢者保健	A 成人・高齢者保健の意義と特徴 B 成人・高齢者保健活動の現状 C 成人保健対策 a 特定健康診査・特定保健指導 b 健康教育、健康相談など D 高齢者保健福祉対策 E 要介護者保健福祉対策 F 地域包括ケアシステム	新オレンジプランを含む
12 産業保健	A 産業保健の意義と特徴 B 保健管理体制と作業管理、作業環境管理、健康管理 C 産業保健活動の現状 D 産業保健対策 a 一般健康診断と事後措置 b 特殊健康診断と事後措置 c 健康保持増進対策	トータルヘルスプロモーションプラン〈THP〉についても出題する
13 精神保健	A 精神保健の意義 B 精神保健活動の現状	

IX 保健・医療・福祉の制度

大 項 目	小 項 目	備 考
1 概要	A 衛生行政の目的 B 衛生行政の組織	
2 法規	A 法の分類 B 歯科衛生士法 C 歯科医師法 D 歯科技工士法 E 関連する医療関係者の身分に関する法規 F 医療に関連する法規 G 薬事に関連する法規 H 地域保健に関連する法規 a 地域保健法 b 健康増進法 c 母子保健法 d 学校保健安全法 e 労働安全衛生法 f 高齢者の医療の確保に関する法律 g 歯科口腔保健の推進に関する法律	
3 医療の動向	A 医療施設 B 医療従事者 C 国民の受療状況 D 国民医療費	

大 項 目	小 項 目	備 考
4 社会保障	A 我が国の社会保障制度 B 社会保険行政 C 医療保険制度 D 年金制度 E 雇用保険および労働者災害補償保険制度 F 介護保険制度 G 社会福祉行政 H 生活保護制度 I 児童と家庭の福祉制度 J 障害者の福祉制度 a 障害者の生活支援 K 高齢者の福祉制度	

五 歯科衛生士概論

(出題方針)

- 1 歯科衛生士の業務を実践するために必要な考え方、医療倫理、医療安全管理およびチーム医療について出題する。

I 歯科衛生士とその業務

大 項 目	小 項 目	備 考
1 概要	A 歯科衛生士の歴史 B 歯科衛生士の現況 C 歯科衛生士法	就業状況、養成制度を含む
2 歯科衛生業務	A 歯科予防処置 B 歯科保健指導 C 歯科診療補助	
3 歯科衛生業務の進め方	A 情報収集 B 問題の明確化 C 計画立案 D 実施 E 評価 F 記録	コミュニケーションスキルを含む 業務記録、情報提供文書、SOAPを含む
4 医療倫理	A 医の倫理 B 患者・家族との関係 a 患者の権利 b インフォームド・コンセント	患者の人権、守秘義務を含む
5 医療安全管理	A 医療事故の防止 B 感染予防対策	
6 チーム医療	A 歯科衛生士の専門性〈プロフェッショナルリズム〉 B 多職種連携	

六 臨床歯科医学

(出題方針)

- 1 歯科衛生士が業務を行うために必要となる歯科臨床に関する基本的知識について出題する。
- 2 歯科診療における共同動作に関連する事項は「歯科診療補助論」において出題する。
- 3 病因論等の歯科医学に関する知識については「疾病の成り立ち及び回復過程の促進」および「歯・口腔の健康と予防に関わる人間の社会の仕組み」においても出題する。
- 4 口腔機能管理に関する知識、技能については「歯科保健指導論」で出題する。

I 臨床歯科総論

大 項 目	小 項 目	備 考
1 全身疾患と歯科治療	A 医療情報の収集 a 医療面接 b 照会状 B 全身疾患の把握 a 主な全身疾患 b 偶発症の予防 c バイタルサインとモニタリング	
2 口腔内検査・口腔機能検査	A 歯の硬組織検査 B 歯髄検査 C 歯周組織検査 D 歯列・咬合検査 E 唾液検査 F 下顎運動・筋機能検査 G 咀嚼機能検査 H 舌運動・舌圧検査 I 摂食嚥下機能検査 J 構音機能検査 K 味覚検査 L 口臭検査 M 微生物学的検査	

II 歯・歯髓・歯周組織の疾患と治療

大項目	小項目	備考
1 保存修復治療	A 歯の硬組織疾患の種類と検査法 - a う蝕の発生とリスクファクター - b う蝕以外の硬組織疾患 - c 歯の硬組織検査 B う蝕治療の流れ C 前準備 - a 防湿法 - b 歯間分離法 - c 歯肉圧排法 - d 隔壁法 D 修復法の種類と特徴 - a 直接修復 - b 間接修復 - c 象牙質知覚過敏処置 - d 歯の漂白 E 窩洞 - a 窩洞の構成と名称 - b 窩洞の分類 - c 窩洞形態の原則 F 硬組織疾患の予防法 G 修復処置後の不快事項とメンテナンス	臨床歯科総論で出題する 各材料の取扱いは「歯科診療補助論」で出題する ラミネートベニア修復を含む

[illegible]

Ⅲ 歯の欠損と治療

大 項 目	小 項 目	備 考
1 概要	A 補綴治療の基礎 a 歯列と基準平面 b 咬合様式・咬合 c 咀嚼、発音・構音 d 顎堤、粘膜、舌、唾液 e 下顎運動と下顎位 f 歯の喪失に伴う変化 B 補綴治療の種類と材料 a 有床義歯（全部床義歯・部分床義歯） b クラウンブリッジ c インプラント義歯 C 補綴装置の維持・支持・安定 D 治療の流れ a 印象採得 b 顎間関係の記録〔咬合採得〕 c 咬合器装着 d 試適 e 補綴装置装着	
2 有床義歯〈可撤性補綴装置〉	A 義歯床 B 人工歯 C 支台装置〈維持装置〉 D 連結装置 E メインテナンスと修理	取扱い方法とリライニングを含む
3 支台築造	A 直接法 B 間接法	
4 クラウン	A 全部被覆冠 B 部分被覆冠 C プロビジョナルレストレーション〔テンポラリークラウン〕	

大 項 目	小 項 目	備 考
5 ブリッジ〈固定性補綴装置〉	A ブリッジの特徴 B ブリッジの構成 C プロビジョナルレストレーション〔テンポラリーブリッジ〕 D メインテナンス	
6 インプラント義歯	A 概要 B 利点と欠点	

Ⅳ 顎・口腔領域の疾患と治療

大 項 目	小 項 目	備 考
1 顎口腔領域の疾患	A 先天異常と発育異常 a 歯と口腔軟組織の異常 b 口唇・口蓋裂 c 顎変形症 B 損傷 a 歯の外傷 b 軟組織の損傷 c 歯槽骨折 d 顎骨骨折 C 口腔粘膜疾患 a 潰瘍を主徴とする疾患 b 水疱形成を主徴とする疾患 c 紅斑・びらんを主徴とする疾患 d 白斑を主徴とする疾患 e 色素沈着 f 口腔乾燥	

大 項 目	小 項 目	備 考
1 顎口腔領域の疾患	D 炎症 - a 歯槽部の炎症 - b 顎骨の炎症 - c 顎骨周囲組織の炎症 E 嚢胞 - a 顎骨に発生する嚢胞 - b 軟組織に発生する嚢胞 F 腫瘍・腫瘍類似疾患 - a 良性腫瘍 - b 悪性腫瘍 - c 腫瘍類似疾患 G 顎関節疾患 - a 顎関節脱臼 - b 顎関節症 - c 顎関節強直症 H 唾液腺疾患 - a 唾液腺炎 - b 流行性耳下腺炎 - c 唾石症 - d 唾液腺腫瘍 I 神経系疾患 - a 三叉神経痛 - b 三叉神経麻痺 - c 顔面神経麻痺 - d 舌痛症 - e オーラルディスキネジア J 血液疾患 - a 貧血 - b 白血病 - c 血友病 - d 特発性血小板減少性紫斑病 - e 播種性血管内凝固亢進症候群〈DIC〉	ドライソケットを含む 上顎洞炎、薬物関連顎骨壊死を含む

大 項 目	小 項 目	備 考
2 口腔外科治療	A 抜歯 B 消炎手術 C 止血処置 D 歯槽骨整形術 E 根尖切除術 F 嚢胞摘出手術・嚢胞開窓手術 G 歯槽骨骨折手術・顎骨骨折手術 H 口腔インプラント手術 I 放射線治療 - a 副作用 - b 治療患者の口腔衛生管理 J 抜歯および術中・術後の局所的偶発症 K 周術期の口腔衛生管理	埋伏歯の抜歯を含む
3 麻酔	A 局所麻酔 - a 表面麻酔 - b 浸潤麻酔 - c 伝達麻酔 B 精神鎮静法 - a 吸入鎮静法 - b 静脈内鎮静法 C 全身麻酔 - a 吸入麻酔 - b 静脈麻酔	
4 全身管理とモニタリング	A バイタルサイン B 経皮的動脈血酸素飽和度〈SPO ₂ 〉 C 歯科治療時の全身的偶発症 - a 神経性ショック - b 過換気症候群 - c アナフィラキシーショック	臨床歯科総論で出題する
5 救命救急処置	A 一次救命処置 B 二次救命処置	「歯科診療補助論」で出題する

V 不正咬合と治療

大 項 目	小 項 目	備 考
1 概要	A 顎顔面の成長発育 a 顎の成長発育 b 顔面の成長発育 c 歯・歯列の成長発育 d 口腔機能の成長発育 e 成長発育の評価 B 正常咬合 a 成立の条件と種類 C 不正咬合 a 歯の位置の異常 b 歯列弓形態の異常 c 上下歯列弓関係の異常 d 不正咬合の分類 e 不正咬合の原因 f 不正咬合の予防 D 不正咬合による障害 a 生理的障害 b 心理的障害	
2 矯正歯科治療の流れ	A 種類と時期 B 診断と説明・同意 a 検査資料 b 資料の分析と診断 C 矯正歯科治療 a 適切な矯正力 b 歯の移動方法 c 歯の移動に伴う組織変化 d 口腔筋機能の回復 e 固定 f 矯正歯科治療と抜歯 D 保定 E 不快事項	成人矯正歯科治療、外科的矯正歯科治療についても出題する 臨床歯科総論で出題する 顎整形力についても出題する

大 項 目	小 項 目	備 考
3 矯正装置	A 器械的装置 B 機能的装置 C 保定装置	固定式・可撤式装置、顎内・顎外固定装置の違いについても出題する

VI 小児の理解と歯科治療

大 項 目	小 項 目	備 考
1 概要	A 小児の成長発育 a 成長発育の特徴 b 小児期の分類 c 身体の発育 d 生理的年齢 e 器官の発育形式 B 小児の機能の発達 a 運動機能 b 感覚機能 c 発音・構音機能 d 摂食嚥下機能 C 情緒、社会性の発達 D バイタルサインと生理的特徴 E 顎顔面と頭蓋の成長発育 F 歯の形成 G 歯の萌出・交換 H 歯列、咬合の発育 I 乳歯、幼若永久歯の特徴 a 乳歯の特徴 b 幼若永久歯の特徴	発育状態の評価を含む 口腔機能は「歯科保健指導論」で出題する 哺乳機能を含む 臨床歯科総論で出題する

[illegible]

VII 高齢者の理解と歯科治療

大 項 目	小 項 目	備 考
1 高齢社会	A 社会環境 a 人口の推移 b 死亡原因 c ノーマライゼーション d 高齢者の QOL B 高齢者のための社会保障制度	「歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み」で出題する 老年人口割合等 「歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み」で出題する
2 加齢変化	A 加齢と老化 B 器官、組織の老化 C 身体機能の老化 D 精神・心理的变化 E 口腔領域の加齢変化 a 歯 b 口腔粘膜と歯周組織 c 唾液腺と唾液分泌 d 口腔感覚	サルコペニア、フレイルを含む 知的機能の変化、認知機能障害を含む オーラルフレイルを含む
3 高齢者の歯科治療	A 患者本人と取り巻く環境の把握 a 生活環境 b 全身状態 c 精神・心理的状況 d 通院条件 B 全身疾患への対応 a 高血圧 b 心疾患 c 脳血管疾患 d 糖尿病 e 認知症 f パーキンソン病	照会状・医療情報・プロブレムリストを含む

大 項 目	小 項 目	備 考
3 高齢者の歯科治療	C 治療目標と治療方針 D 患者指導 E メインテナンス	
4 通院困難者への対応	A 訪問診療 a 要介護高齢者 b 在宅患者の治療 c 入院患者の治療 d 訪問診療用器材 e 歯科衛生士の役割と多職種連携 B 口腔衛生管理 C 口腔機能管理 a 口腔機能の維持・向上 b 介護予防 c 多職種連携 D 栄養管理	「歯科保健指導論」で出題する 「歯科保健指導論」で出題する 「歯科保健指導論」で出題する
5 高齢者の摂食嚥下とリハビリテーション	A 摂食嚥下障害 a メカニズム b 器質的障害と機能的障害 c 間接訓練と直接訓練 d 食環境・食内容 e 食支援・摂食介助法 f 口腔衛生管理 B 誤嚥性肺炎 a 原因 b 経鼻経管栄養と胃瘻 c 口腔衛生管理	「歯科保健指導論」で出題する

VIII 障害児者の理解と歯科治療

大 項 目	小 項 目	備 考
1 基礎知識	A 障害の概念 a ノーマライゼーション b バリアフリー c 国際生活機能分類〈ICF〉 d QOL e 障害のある人の社会・医療・福祉制度	「歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み」で出題する
2 障害の種類と歯科的特徴	A 精神発達・心理的発達と行動障害 a 精神遅滞〈知的障害〉 b 自閉性障害〈広汎性発達障害〉 c 強度行動障害 d 注意欠陥多動性障害〈ADHD〉 e 学習障害〈LD〉 B 神経・運動障害 a 脳性麻痺 b 重症心身障害 c 筋ジストロフィー d 脊髄損傷 e 関節リウマチ f 脳血管障害 g 筋萎縮性側索硬化症〈ALS〉 h パーキンソン病 C 感覚障害 a 視覚障害 b 聴覚障害 c 平衡障害 d 味覚障害 D 発音・構音障害	

大 項 目	小 項 目	備 考
2 障害の種類と歯科的特徴	E 精神及び行動の障害 a 統合失調症 b うつ病 c 心身症 d 認知症 F 染色体異常に伴う障害 G 摂食嚥下障害	「歯科保健指導論」で出題する
3 障害児者の歯科治療	A 行動調整 a コミュニケーション法 b 行動療法 c 薬物的行動療法 d 体動の調整法 B 健康支援と口腔管理 a 介助者による口腔清掃 b 口腔管理 c セルフケア向上のための支援 C リスク評価と安全管理 a リスク評価法 b 医療安全管理体制 c 常用薬と安全管理	治療への導入を含む 治療中の患者のコントロールを含む
4 障害児者の摂食嚥下障害とリハビリテーション	A 摂食嚥下障害と口腔管理 B 摂食嚥下障害と栄養管理 C 摂食嚥下障害の評価法 D 機能訓練法 E 摂食介助法 F 発達期の評価と対処法 G 成人期・老年期の評価と対処法 H 歯科衛生士の役割 I 多職種連携	「歯科保健指導論」で出題する

七 歯科予防処置論

(出題方針)

- 1 歯科予防処置に関する知識、技能および対応について出題する。

I 総論

大 項 目	小 項 目	備 考
1 概要	A 歯科予防処置の範囲と業務 B 歯周病予防 C う蝕予防	
2 対象者の把握	A 全身状態 B 生活習慣 C ライフステージの特徴	
3 歯・口腔の健康状態の把握	A 歯 B 歯周組織 C 付着物・沈着物	

II 歯周病予防処置

大 項 目	小 項 目	備 考
1 基礎知識	A 歯周病と生活習慣の関連 B 歯周病と全身疾患の関連 C 歯周病のリスク	

大 項 目	小 項 目	備 考
2 歯・歯周組織の検査	A プロービング a プロービングポケット深さ b アタッチメントレベル c プロービング時の出血〈BOP〉 と歯肉出血インデックス〈GBI〉 d 根分岐部病変の有無と程度 B 歯肉の炎症の評価 C プラーク・歯石の検査 D 口腔内写真・エックス線写真 の観察と評価 E 動揺度検査 F 検査結果の評価	歯周病に関連する指標を含む 指標を含む
3 計画	A 歯周予防計画	
4 スケーリング・ルートプレーニング	A 使用機器・器具の種類と特徴 a 手用スケーラー b 超音波スケーラー c エアスケーラー B 操作方法 C シャープニング	
5 歯面清掃・研磨	A 使用機器・器具・材料の種類 と操作法	
6 メインテナンス	A 目的 B 評価	

Ⅲ う蝕予防処置

大 項 目	小 項 目	備 考
1 基礎知識	A う蝕と生活習慣の関連 B う蝕と全身疾患の関連 C う蝕予防処置の安全性	
2 評価と計画	A う蝕のリスク評価 B う蝕予防処置計画	フッ化ジアンミン銀を含む
3 フッ化物歯面塗布	A 使用薬剤の種類と取扱い B 塗布法の分類と術式 C 実施上の注意	塗布前後の指導を含む
4 小窩裂溝填塞	A 填塞材の種類・特徴 B 適応症 C 術式 D 実施上の注意	填塞前後の指導を含む
5 フッ化物洗口	A 使用薬剤の種類と取扱い B 適応症 C 実施場所と洗口方法 D 実施上の注意	
6 フッ化物配合歯磨剤	A フッ化物の種類 B 使用法	
7 メインテナンス	A 目的 B 評価	

八 歯科保健指導論

(出題方針)

- 1 歯科保健指導に関する知識、技能および対応について出題する。

Ⅱ 情報収集

大 項 目	小 項 目	備 考
1 個人	A 全身的な健康状態の把握 a 器質的、機能的問題の把握 b 虐待との関連 c 服薬 B 認知および精神状態の把握 C 生活環境と生活背景の把握 D 生活習慣の把握 a 食習慣、喫煙、飲酒、睡眠、運動、ストレス b 保健行動 c 受療行動 E 口腔の器質的、機能的問題の把握 a 口腔疾患、異常 b 口腔衛生状態 c 口腔機能	フレイルを含む 日常生活動作、日常生活自立度を含む 歯・口腔の健康状態の把握は「歯科予防処置論」で出題する 発達を含む
2 集団・組織・地域	A 集団・組織・地域の理解 a 集団の特徴の把握 b 口腔保健ニーズの把握	

Ⅲ 口腔衛生管理

大 項 目	小 項 目	備 考
1 基礎知識	A 口腔清掃用具 a 歯ブラシ b 歯間部清掃用具 c 舌・口腔粘膜の清掃用具 B 歯磨剤・洗口剤・保湿剤	電動歯ブラシを含む
2 指導の要点	A 口腔衛生状態 B 指導内容 a ブラッシング法の選択 b 歯ブラシの選択と使用法 c 歯間部清掃用具の選択と使用法 d 舌・口腔粘膜清掃用具の選択と使用法 e 歯磨剤・洗口剤・保湿剤の選択と使用法	清掃用具による為害作用を含む 歯間清掃用ジェルを含む
3 対象別の指導	A ライフステージに対応した指導 B 口腔状況に応じた指導 a う蝕 b 歯周病 c 不正咬合 d 義歯装着 e 口臭 f その他 C 配慮を要する者への指導 a 妊産婦 b 全身疾患を有する者 c 障害児者 d 要介護者 e 大規模災害被災者	乳幼児期の口腔清掃の導入法を含む 固定式・可撤式装置装着者を含む インプラント、口腔乾燥症、粘膜疾患など 周術期の対応を含む

IV 生活習慣指導

大 項 目	小 項 目	備 考
1 基礎知識	A 口腔保健と生活習慣 B 口腔保健と非感染性疾患 〈NCDs〉	
2 指導の要点	A 生活習慣の把握 B 指導内容 a 禁煙指導・支援 b 食・生活習慣改善 c ストレスマネジメント	受療行動を含む
3 対象別の指導法	A ライフステージに対応した指導 B 疾患・異常のリスクに応じた指導 C 配慮を要する者への指導	

V 食生活指導

大 項 目	小 項 目	備 考
1 基礎知識	A 栄養素 a 五大栄養素とその働き B 食品 a 食品成分表 b 食品群 c 保健機能食品 d 食品添加物	特別用途食品を含む

大 項 目	小 項 目	備 考
	C 食生活の概要 a 食生活と健康との関連 b 国民健康・栄養調査 c 食育と食育基本法 d 食事摂取基準 e 食生活指針 D 栄養・食生活と健康との関連 a 低栄養 b 全身の健康との関連 c 歯の成長・発育との関連 d 歯科疾患との関連	食事バランスガイドを含む 妊娠期の栄養を含む
2 指導の要点	A 栄養状態の把握 B 口腔衛生・口腔機能との関連 C 食生活・食事記録 D 食支援 a 食事内容 b 咀嚼の仕方・回数	歯の損耗〈Tooth Wear〉を含む 形態、量、回数など 咀嚼習慣と肥満の関連を含む
3 対象別の指導法	A ライフステージに応じた指導 B 配慮を要する者への指導 a 妊産婦 b 全身疾患を有する者 c 障害児者 d 要介護者 e 摂食嚥下障害を有する者 C 障害児者・要介護者の食事介助	授乳・離乳の指導を含む 食形態、食事姿勢、嚥下食を含む

Ⅵ 口腔機能管理

大 項 目	小 項 目	備 考
1 基礎知識	A 口腔機能管理の意義と目的 B 口腔機能の種類 a 摂食嚥下機能 b 発音・構音機能 c 運動機能 d 感覚機能 e 唾液分泌機能 C 口腔機能と関連する組織・器官 D 成長と発育 a 顎・顔面 b 歯・歯列 c 口腔機能 E リハビリテーション F 全身疾患との関連 G 歯科衛生士の役割と多職種連携	咬合、下顎運動と舌運動 味覚 咬合と下顎運動 栄養サポートチーム〈NST〉を含む
2 評価	A 口腔機能の評価 a 正常 b 低下・障害・不全 c 亢進 B 歯科治療の要否	
3 機能障害別の指導法	A 摂食嚥下機能障害 a メカニズム b 器質的障害と機能的障害 c 間接訓練と直接訓練 d 食環境・食内容 e 食支援・摂食介助法 f 口腔衛生管理 B 発音・構音障害	リハビリテーションを含む 歯石除去、PTC は「歯科予防処置論」で出題する リハビリテーションを含む

大 項 目	小 項 目	備 考
4 対象別の指導法	A ライフステージに対応した指導 a 乳幼児・小児 b 障害児者 c 成人 d 高齢者 B 配慮を要する者への指導 a 全身疾患を有する者	発達期、口腔筋機能療法〈MFT〉を含む オーラルフレイルを含む 周術期の対応を含む

Ⅶ 健康教育

大 項 目	小 項 目	備 考
1 健康教育の対象	A 保育所、幼稚園 a 乳幼児 b 保護者 c 保育士、教員 B 学校 a 児童・生徒・学生 b 保護者 c 教員 C 事業所 a 労働者 b 衛生管理者 D 保健所、市町村センター a 住民 b 他の専門職 E 地域・病院・施設	地域における口腔保健普及活動および居宅療養管理指導を含む

大 項 目	小 項 目	備 考
2 健康教育の要点	A 集団・組織・地域に応じた内容 B 健康教育の方法 a 媒体の活用 b 講話・講演会形式 c 体験学習型形式 d マスメディアの活用 C 評価	

九 歯科診療補助論

(出題方針)

- 1 歯科診療補助に関する知識、技能および対応について出題する。

I 総論

大 項 目	小 項 目	備 考
1 概要	A 歯科診療補助の範囲と業務 B チーム歯科医療の考え方 a 歯科医師との連携 b 多職種との連携 C 訪問診療	在宅、施設を含む
2 情報収集	A 全身状態の把握 B 口腔内状態の把握	モニターの取扱いを含む
3 患者への対応	A 一般的対応 B 配慮を要する者への対応 a 高齢者 b 妊産婦 c 全身疾患を有する者 d 通院困難者	治療時の具体的な対応について出題する 感染症患者を含む
4 診療時の共同動作	A 共同動作の基本 B 術者・補助者・患者の位置と姿勢 C フォーハンド D バキュームテクニック	ライティングを含む 器具の受け渡しを含む
5 診療設備の管理	A 歯科用ユニット B エックス線撮影装置 C レーザー装置 D 酸素吸入器 E 口腔外バキューム装置 F 薬品、歯科材料の管理	エアータービン、マイクロモーターを含む

大 項 目	小 項 目	備 考
6 医療安全管理	A 医療事故の防止	薬品と医療器材
	a 医療危機管理〈リスクマネージメント〉	
	b ヒヤリハット、アクシデント	インシデント、医療事故報告書を含む
7 消毒・滅菌	B 感染対策	医療廃棄物の定義を含む
	a スタンダードプレコーション	
	b 医療廃棄物の取扱い	
	A 消毒・滅菌の定義	洗浄も含む
	B 消毒・滅菌の種類と効能	在宅診療での器具の取扱いを含む
	C 薬液消毒	
	a 使用薬の種類・用途および濃度	
	b 消毒薬効果の持続	
	c 手指消毒	
	D 滅菌法	
	a 高圧蒸気滅菌	
	b エチレンオキシドガス滅菌	
	c 低温プラズマ滅菌	
	d 乾熱滅菌	
	E 消毒・滅菌済み器材の管理	

Ⅱ 主要歯科材料の種類と取扱いと管理

大 項 目	小 項 目	備 考
1 模型用材料	A 歯科用石膏の種類と用途	基本的性質を含む
	a 普通石膏	
	b 硬質石膏	
	c 超硬質石膏	

大 項 目	小 項 目	備 考
2 合着・接着・仮着用材料	A リン酸亜鉛セメント B グラスアイオノマーセメント C ポリカルボキシレートセメント D レジンセメント E 仮着用セメント	基本的性質、取扱い及び管理を含む
3 印象用材料	A アルジネート印象材 B 寒天印象材 C 合成ゴム質印象材 D 酸化亜鉛ユージオール印象材 E モデリングコンパウンド	
4 歯冠修復用材料	A コンボジットレジン B グラスアイオノマーセメント C セラミックス	強化型グラスアイオノマーセメントを含む
5 仮封用材料	A テンポラリーストッピング B セメント系仮封材 C 水硬性仮封材 D 仮封用軟質レジン E サンダラックアルコール	
6 その他の材料	A ワックス B 義歯用材料 C インプラント用材料	

Ⅲ 保存治療時の診療補助

大 項 目	小 項 目	備 考
1 前準備	A 器材の取扱い a 防湿法 b 歯間分離法 c 歯肉圧排法 d 隔壁法	
2 窩洞形成	A 切削用器具・器材の取扱いと管理	レーザー、エアブレイシブ、音波切削、化学的溶解法を含む
3 直接修復	A 直接修復の器材準備と取扱い a 材料の準備 b 充填用器具の準備 c 接着技術 d 光照射用器具の取扱い e 研磨	
4 間接修復	A 間接修復の器材準備と取扱い a 印象採得 b 顎間関係の記録 [咬合採得] c 装着 d 後処置	余剰セメントの除去を含む
5 歯の漂白	A 生活歯の漂白 B 失活歯の漂白	
6 歯髄処置	A 歯髄処置用器材・薬剤の準備と取扱い B 電気歯髄診断器の取扱い	
7 根管処置	A 根管処置用器材・薬剤の種類と取扱い B 根管長測定器の取扱い C 根管充填用器材・薬剤の種類と取扱い	
8 外科的歯内療法	A 外科的歯内療法の器材と取扱い	

大 項 目	小 項 目	備 考
9 歯周外科治療	A 歯周治療用器材・薬剤の種類と用途 B 歯周用パックの種類と取扱い	

Ⅳ 補綴治療時の診療補助

大 項 目	小 項 目	備 考
1 検査	A 各種検査の準備	咬合音検査、ゴシックアーチ描記法、チェックバイト法、平行測定法を含む
2 印象採得	A 印象採得に用いる器材準備と取扱い	
3 顎間関係の記録	A 顎間関係の記録に用いる器材準備と取扱い	咬合床の取扱い、顔弓操作、咬合器付着を含む
4 プロビジョナルレストレーション [テンポラリークラウン]	A プロビジョナルレストレーション [テンポラリークラウン] に用いる器材準備と取扱い	
5 補綴装置の装着	A 有床義歯装着時の器材と準備 B クラウンブリッジ装着時の器材と準備	補綴装置の取扱い、管理については、「歯科保健指導論」で出題する

V 口腔外科治療時の診療補助

大 項 目	小 項 目	備 考
1 抜歯	A 抜歯用器材の準備と取扱い B 抜歯後の注意	
2 小手術	A 小手術用器材の準備と取扱い	
3 止血処置	A 止血法の種類 B 止血薬の種類と取扱い	
4 縫合	A 縫合用器材の種類と準備・取扱い	
5 麻酔	A 局所麻酔時の器材・薬剤の準備と取扱い B 精神鎮静法時の器材・薬剤の準備と取扱い C 全身麻酔時の器材・薬剤の準備と補助	笑気吸入鎮静法の準備、静脈内鎮静法の準備を含む
7 患者管理	A 周術期の口腔管理 a 外来患者 b 入院患者	

VI 矯正歯科治療時の診療補助

大 項 目	小 項 目	備 考
1 器具・材料	A 矯正歯科用器材の種類と取扱い	
2 検査記録	A 口腔内・顔面写真の撮影 B 頭部エックス線規格写真のトレース C 口腔模型の作製	

大 項 目	小 項 目	備 考
3 装置の装着	A 接着材の種類、用途と取扱い B 帯環〈バンド〉の種類と取扱い C ワイヤの種類、用途と取扱い D ブラケットの種類、用途と取扱い E 結紮 F 各種矯正装置装着者への指導	
4 装置の撤去	A 撤去に必要な器具の種類、用途と取扱い B 研磨	

VII 小児歯科治療時の診療補助

大 項 目	小 項 目	備 考
1 小児の歯科治療	A 小児の状態把握と対応 B 必要な器材・薬剤の準備	

VIII 高齢者治療時の診療補助

大 項 目	小 項 目	備 考
1 高齢者の歯科治療	A 対象者の状態把握と対応 B 診療の場 a 外来診療 b 訪問診療 C 必要な器材・薬剤の準備 D 口腔衛生管理 E 口腔機能管理 a 摂食嚥下障害への対応	病棟・施設を含む 「歯科保健指導論」で出題する 「歯科保健指導論」で出題する

IX 障害児者治療時の診療補助

大 項 目	小 項 目	備 考
1 障害児者の歯科治療	A 対象者の状態把握と対応 a 危険の予測と管理 b 治療への導入 c 治療中の患者コントロール B 診療の場 a 外来診療 b 訪問診療 C 必要な器材・薬剤の準備 D 口腔衛生管理 E 口腔機能管理 a 摂食嚥下障害への対応	 病棟・施設を含む 「歯科保健指導論」で出題する 「歯科保健指導論」で出題する

X エックス線写真撮影時の診療補助

大 項 目	小 項 目	備 考
1 器具・材料	A エックス線撮影装置の準備 B 歯科用・パノラマ用撮影装置、デジタル画像システム	
2 口内法撮影	A 頭部の固定 B フィルムの位置・固定 a 二等分法と平行法 b 咬翼法と咬合法 c 正放線投影と偏心投影	
3 写真の処理と管理	A 写真処理と画像管理	フィルム、データの処理と保管について出題する
4 放射線の人体への影響と防護	A 放射線の人体への影響 B 防護の実際 C 被曝量の測定	

XI 救命救急処置

大 項 目	小 項 目	備 考
1 全身管理とモニタリング	A バイタルサインの把握 B 意識レベルの把握 C モニタリング	体温、脈拍、血圧、経皮的動脈血酸素飽和度〈SPO ₂ 〉の測定 JCS〈Japan Coma Scale〉、徒手筋力テストを含む 血圧、脈拍、心機能、呼吸モニターを含む
2 救命救急処置	A 一次救命処置 a 気道確保 b 人工呼吸 c 心マッサージ B 二次救命処置 a 酸素療法 b 静脈路の確保と点滴法 C AED の取扱い D 全身的偶発症への対応 a 神経性ショック b 過換気症候群 c アナフィラキシーショック d 誤飲および誤嚥	救命蘇生法の基礎知識を出題する

索引

* 太字の大項目は小項目を含めた索引です

〈ア〉

アルジネート印象材 87
アレルギー 24
アレルギー反応 20

〈イ〉

意識レベルの把握 93
維持装置 56
萎縮 19
移植免疫 20
痛みと薬物 27
一次救命処置 59, 93
1歳6か月児歯科健康診査と保健指導 38
一般体性感覚の構造 4
一般的対応 85
一般臨床検査 52
遺伝子と遺伝情報 3
遺伝子とタンパク質合成 6
遺伝性疾患と先天異常 19
胃における消化 8
医の倫理 47
医薬品医療機器法 27
医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律 27
医薬品の分類 27
医薬部外品 27
医療安全管理 47, 86
医療圏と保健医療計画 40
医療事故の防止 47, 86
医療施設 42
医療従事者 42
医療情報の収集 51
医療と薬物 26
医療に関連する法規 42
医療の動向 42
医療廃棄物の取扱い 86
医療保険制度 43
医療倫理 47
色の異常 20

印象採得 89
印象採得に用いる器材準備と取扱い 89
印象用材料 87
咽頭 13
院内感染とその防止 40
インプラント義歯 57
インプラント用材料 87

〈ウ〉

ウイルス 22, 24
う蝕 20, 25
う蝕原因菌 25
う蝕治療の流れ 53
う蝕と生活習慣の関連 71
う蝕と全身疾患の関連 71
う蝕に関する指標 36
う蝕の疫学 36
う蝕の進行と症状 33
う蝕のセルフケア 33
う蝕の発生要因と機序 33
う蝕のパブリックヘルスケア 33
う蝕のプロフェッショナルケア 33
う蝕の有病状況 33
う蝕の予防方法 33
第一次予防 33
第二次予防 33
第三次予防 33
う蝕のリスク評価 33, 71
う蝕予防 69
う蝕予防機序 34
う蝕予防効果 34
う蝕予防処置計画 71
う蝕予防処置の安全性 71
う蝕予防への局所応用 34
う蝕予防への全身応用 34
運動器系 4

〈エ〉

衛生行政の組織 42
衛生行政の目的 42

衛生統計の基礎 36
栄養・食生活と健康との関連 79
栄養管理 64
栄養状態の把握 79
栄養素 78
疫学 40
疫学調査の進め方 36
疫学の研究方法 40
疫学の定義 40
エックス線画像の形成 52
エックス線撮影 52
エックス線撮影装置 85
エックス線撮影装置の準備 92
エックス線写真の観察と評価 70
エナメル質う蝕 20
エナメル質の成熟 31
エネルギー代謝 6
炎症 19, 58
炎症性疾患 22
炎症の概念と徴候 19
炎症の機序と病態 19
炎症の原因 19
炎症の分類 19

〈オ〉

嘔吐 15
大きさの異常 20

〈カ〉

外因 19
外呼吸と内呼吸 7
介護保険制度 43
外傷歯の治療 54
開発途上国への歯科保健医療協力 39
潰瘍性病変 21
下顎運動・筋機能検査 51
化学療法 24
化学療法薬 24
顎関節 13
顎関節疾患 58
顎関節症 35

顎顔面と頭蓋の成長発育 61
顎顔面の成長発育 60
顎口腔の疾患 62
顎口腔領域の疾患 57
各種矯正装置装着者への指導 91
各種検査の準備（補綴治療時の） 89
覚せい剤 27
ガス交換 7
数の異常 20
化生 19
画像検査 52
形の異常 20
仮着用材料 87
仮着用セメント 87
顎間関係の記録 89
顎間関係の記録に用いる器材準備と取扱い 89
学校歯科医 38
学校歯科保健 38
学校保健 41
学校保健安全対策 41
学校保健安全の意義と特徴 41
学校保健活動の現状 41
学校保健統計調査 37
顎骨の病変 22
窩洞 53
窩洞形成 88
過敏症 20
仮封用材料 87
仮封用軟質レジン 87
加齢 5
加齢変化 63
加齢 63
老化 63
器官、組織の老化 63
身体機能の老化 63
精神・心理的变化 63
口腔領域の加齢変化 63
感覚 8
感覚器系 4
感覚障害 65
感覚の基本的性質 8
換気 7
環境と健康 39
環境保全・公害防止 39
観察方法 22
患者・家族との関係 47

患者管理 90
患者指導 64
患者調査 37
患者への対応 85
患者本人と取り巻く環境の把握 63
間接修復 88
間接修復の器材準備と取扱い 88
感染 23
感染経路 23
感染症 40
感染症の成り立ちと予防 40
感染対策 47, 86
感染と薬物 28
感染の種類 23
感染の成立 23
寒天印象材 87
顔面・頸部の体表 13
顔面と口腔の発生 14
関連する医療関係者の身分に関する法規 42

〈キ〉

器械的装置 61
器官 3
器官・組織の変化 5
器具・材料 90
器材の取扱い（保存治療時の） 88
義歯床 56
義歯用材料 87
機能訓練法 66
機能障害別の指導法 80
機能的装置 61
基本成分と配合目的 32
救命救急処置 59, 93
矯正歯科治療 60
矯正歯科治療の種類と時期 60
矯正歯科治療の診断と説明・同意 60
矯正歯科治療の流れ 60
矯正歯科治療の不快事項 60
矯正歯科用器材の種類と取扱い 90
矯正装置 61
共同動作の基本 85
業務記録 75
局所性止血薬 28

局所の循環障害 19
局所麻酔 59
局所麻酔時の器材・薬剤の準備と取扱い 90
局所麻酔薬 27
記録（歯科衛生士業務） 47
筋 4, 7
筋の収縮 7

〈ク〉

クラウン 56
クラウンブリッジ装着時の器材と準備 89
グラスアイオノマーセメント 87
クラミジア 24
グラム陰性桿菌 24
グラム陰性球菌 24
グラム陽性桿菌 24
グラム陽性球菌 24

〈ケ〉

計画 70
計画立案（歯科衛生士業務） 47
経皮的動脈血酸素飽和度 59
外科的歯内療法 54, 88
外科的歯内療法の器材と取扱い 88
劇薬 27
化粧品 27
血液 6
血液ガスの運搬 7
血液型と輸血 6
血液疾患 58
血液循環 7
血液と薬物 28
血液の組成 6
血管系 3
血管収縮薬の添加 27
結紮 91
健康・疾病・異常の指標 40
健康管理 41
健康教育の対象 81
保育所 81
幼稚園 81
学校 81
事業所 81
保健所 81

市町村センター	81
地域	81
病院	81
施設	81
健康教育の方法	82
健康教育の要点	82
健康支援と口腔管理	66
健康寿命	39
健康増進法	38
健康づくり運動の変遷と現状	39
健康日本21	38
健康の概念と保持増進	39
検査（補綴治療時の）	89
検査記録	90
検査結果の評価	70
検査の種類と検査値の評価（臨床）	52
検査の目的（臨床）	52
検査の倫理と安全（臨床）	52
原虫	24
検定結果の解釈	37
研磨	91

〈コ〉

抗炎症薬	28
構音機能検査	51
抗菌薬	28
口腔	13
口腔・顎顔面・頭頸部	13, 15
口腔・顎顔面の加齢変化	14
口腔インプラント手術	59
口腔衛生・口腔機能との関連（栄養状態）	79
口腔衛生管理	64, 91, 92
口腔衛生状態	77
口腔衛生の指導内容	77
口腔外バキューム装置	85
口腔痛	35
口腔環境	31
口腔環境と常在微生物	25
口腔機能回復治療	55
口腔機能管理	64, 91, 92
口腔機能管理の意義と目的	80
口腔機能検査	51
口腔機能と関連する組織・器官	80
口腔機能の種類	80
口腔機能の評価	80

口腔外科治療	59
口腔状況に応じた指導	77
口腔常在微生物	25
口腔清掃状態に関する指標	36
口腔清掃の種類	32
口腔清掃用具	32, 77
口腔創傷の治療	21
口腔と顎顔面の発生と加齢	14
口腔内・顔面写真の撮影	90
口腔内検査	51
口腔内写真の観察と評価	70
口腔内常在微生物	31
口腔内状態の把握	85
口腔粘膜疾患	57
口腔粘膜傷の治療	21
口腔粘膜の感覚	15
口腔粘膜の病変	21
口腔の悪性新生物の疫学	36
口腔の器質的、機能的問題の把握	76

口腔保健	78
口腔保健活動の目標	37
口腔保健教育	37
口腔保健と健康	31
口腔保健と生活習慣	78
口腔模型の作製	90
抗けいれん薬	27
抗血栓薬	28
抗原抗体反応	24
咬合	14
口臭検査	51
口臭の原因と分類	35
口臭の検査	35
口臭の予防	35
口臭の予防方法	35
合成ゴム質印象材	87
向精神薬	27
構造の異常	20
硬組織疾患の予防法	53
酵素の種類と作用	6
合着用材料	87
抗てんかん薬	27
喉頭	13
行動調整	66
行動変容	75
口内法撮影	92
頭部の固定	92
フィルム的位置・固定	92
抗パーキンソン病薬	27

抗ヒスタミン薬	28
高齢社会	63
高齢者歯科保健	38
高齢者の歯科治療	63, 91
高齢者の社会環境	63
高齢者の摂食嚥下とリハビリテーション	64
高齢者のための社会保障制度	63
高齢者の福祉制度	43
高齢者保健活動の現状	41
高齢者保健の意義と特徴	41
高齢者保健福祉対策	41
誤嚥性肺炎	64
呼吸	7
呼吸・循環と薬物	28
呼吸器系	3
呼吸器系作用薬	28
呼吸器の構造	3
呼吸の調節	7
国際協力と関連機関	39
国際歯科保健	39
国民医療費	42
国民健康・栄養調査	37
国民の受療状況	42
骨格	4
骨格筋	7
国家統計調査の分類	37
骨の連結	4
固定性補綴装置	57
コミュニケーションスキル	75
雇用保険および労働者災害補償保険制度	43
根管充填	54
根管充填用器材・薬剤の種類と取扱	い 88
根管処置	88
根管処置用器材・薬剤の種類と取扱	い 88
根管長測定器の取り扱い	88
根管治療と治療に用いる器具・器材	54
根尖性歯周組織疾患の種類と病態	54
根尖性歯周組織疾患の治療	54
根尖切除術	59
根尖性歯周炎の分類と特徴	21
根尖部歯周組織の病変	21
根分岐部病変の治療	55
コンボジットレジン	87

根未完全歯の処置	54
〈サ〉	
災害時の歯科保健	38
鰓弓の形成	14
細菌	22
細菌の顕微鏡観察法	22
剤形	27, 32
再生	19
細胞	3, 6
細胞・組織・器官	3
細胞・組織の傷害	19
細胞死	19
細胞の機能	6
細胞分裂	6
催眠薬	27
作業環境管理	41
酸化亜鉛ユージノール印象材	87
産業歯科保健	38
産業歯科保健活動	38
産業保健	41
産業保健活動の現状	41
産業保健対策	41
産業保健の意義と特徴	41
3歳児歯科健康診査と保健指導	38
酸素吸入器	85
サンダラックアルコール	87

〈シ〉

歯科医師法	42
歯科衛生業務	47
歯科衛生業務の進め方	47
歯科衛生士の現況	47
歯科衛生士の専門性	47
歯科衛生士のプロフェッショナルリズム	47
歯科衛生士の役割	37, 66
歯科衛生士の役割と多職種連携	80
歯科衛生士の歴史	47
歯科衛生士法	42, 47
歯科技工士法	42
歯科口腔保健の推進に関する法律	42
歯科材料の管理	85
歯科疾患実態調査	37

歯科疾患の疫学	36
歯科疾患の指標	36
歯科疾患の予防	31
歯科診療補助	47
歯科診療補助の範囲と業務	85
歯科治療時の全身的偶発症	59
歯科治療の要否	80
歯科保健指導	47
歯科保健指導・健康教育の進め方	75
歯科保健指導の意義と目的	75
歯科保健統計	37
歯科用・パノラマ用撮影装置	92
歯科用石膏の種類と用途	86
歯科用ユニット	85
歯科予防処置	47
歯科予防処置の範囲と業務	69
歯冠修復用材料	87
歯間部清掃用具	32
色素性病変	21
止血	6
止血処置	59, 90
止血法の種類	90
止血薬の種類と取り扱い	90
歯垢	25
歯垢染色剤	32
自己免疫疾患	20
歯式	14
歯種	14
歯周基本治療	55
歯周外科治療	55, 89
歯周組織	69
歯周組織検査	51, 55
歯周組織の生理	15
歯周組織の組成	15
歯周組織の病変	21
歯周治療	55
歯周治療後の再評価	55
歯周治療用器材・薬剤の種類と用途	89
歯周病	25
歯周病原菌	25
歯周病と生活習慣の関連	69
歯周病と全身疾患の関連	69
歯周病と全身との関連	34, 55
歯周病に関する指標	36
歯周病の疫学	36
歯周病の疫学に用いる指数とその解釈	55

歯周病の抗菌療法	55
歯周病の種類と病態	55
歯周病の進行と症状	34
歯周病のセルフケア	35
歯周病の発現とリスクファクター	55
歯周病の発生要因と機序	34
歯周病のパブリックヘルスケア	35
歯周病のプロフェッショナルケア	35
歯周病の分類	34
歯周病の分類と特徴	21
歯周病の有病状況	34
歯周病の予防方法	35
第一次予防	35
第二次予防	35
第三次予防	35
歯周病のリスク	69
歯周病のリスク評価	34
歯周病予防	69
歯周用バックの種類と取扱い	89
歯周予防計画	70
歯髓壊死	21
歯髓壊疽	21
歯髓炎の分類と特徴	21
歯髓検査	51, 54
歯髓疾患の種類と病態	54
歯髓充血	21
歯髓除去療法	54
歯髓処置	88
歯髓処置用器材・薬剤の準備と取扱い	88
歯髓の病変	21
歯髓の変性	21
歯髓保存療法	54
姿勢	5
歯槽骨骨折手術・顎骨骨折手術	59
歯槽骨整形術	59
支台装置	56
支台築造	56
直接法	56
間接法	56
市町村と都道府県の歯科保健業務	37
市町村保健センター	40
失活歯の漂白	88

疾患・異常のリスクに応じた指導	78
実施（歯科衛生士業務）	47
実施上の注意	71
疾病・異常の発生要因	40
児童と家庭の福祉制度	43
指導内容	78
指導の要点	77, 78, 79
歯内療法	54
歯内療法における安全対策	54
歯肉の炎症の評価	70
歯磨剤	32, 77
歯面清掃・歯面研磨	70
シャープニング	70
社会福祉行政	43
社会保険行政	43
社会保障	43
写真処理と画像管理	92
写真の処理と管理	92
周術期の口腔管理	90
周術期の口腔衛生管理	59
集団・組織・地域	76
集団・組織・地域に応じた内容	82
集団・組織・地域の理解	76
宿主の抵抗性	23
受精と着床	5
術者・補助者・患者の位置と姿勢	85
腫瘍	20, 22, 58
主要感染症の動向と予防	40
腫瘍の概念と疫学	20
腫瘍の原因と発生・進展の機序	20
腫瘍の組織学的特徴	20
腫瘍の分類	20
腫瘍類似疾患	58
腫瘍類似病変	22
循環	7
循環器系	3
循環器系作用薬	28
循環障害	19
消炎手術	59
障害児者の歯科治療	66, 92
障害児者の食事介助	79
障害児者の摂食嚥下障害とリハビリテーション	66
障害者歯科保健	38
障害者の福祉制度	43

障害の概念	65
障害の種類と歯科の特徴	65, 66
生涯を通じた保健・福祉	39
消化管ホルモン	8
消化器系	5
消化器系の構造	5
消化吸収	8
小窩裂溝填塞	71
填塞材の種類・特徴	71
適応症	71
術式	71
使用機器・器具・材料の種類と操作法	70
小手術	90
小手術用器材の準備と取扱い	90
情緒、社会性の発達	61
消毒・滅菌	25, 86
消毒・滅菌済み器材の管理	86
消毒・滅菌の種類と効能	86
消毒・滅菌の定義	25, 86
消毒法	25
消毒薬	28
小児患者の評価と対応	62
行動の特徴と情動変化	62
小児の生活環境の評価	62
小児患者への歯科の対応	62
小児の機能の発達	61
小児の歯科治療	62, 91
検査	62
薬物投与	62
応急処置	62
歯冠修復処置	62
歯内療法処置	62
歯周病の処置	62
口腔外科処置	62
外傷の処置	62
咬合誘導	62
口腔管理	62
小児の疾病異常	62
小児の状態把握と対応	91
小児の成長発育	61
情報収集	47, 85
使用薬剤の種類と取扱い	71
初期う蝕と再石灰化	33
職域口腔保健	38
職域での口腔保健管理	38
職業性歯科疾患	38
食支援	79
食事記録	79

食生活	79
食生活の概要	79
食中毒とその予防	40
食品	78
食品と健康	40
食品の安全	40
女性生殖器系の構造	5
触覚	31
処方せん〈箋〉	27
自律神経系作用薬	27
歯列	14
歯列、咬合の発育	61
歯列・咬合検査	51
心筋	7
真菌	24
神経	7
神経・運動障害	65
神経系	4
神経系疾患	58
神経細胞の機能	7
神経組織	4
神経伝達物質	27
神経伝導路	7
人口	39
人工歯	56
人口静態統計	39
人口動態統計	39
心臓	3
身体と薬物	26
人体の基本構成	3
人体の構成成分	6
信頼関係の構築	75
心理的発達と行動障害	65
診療時の共同動作	85
診療設備の管理	85
診療の場	91, 92

〈ス〉

水硬性仮封材	87
水疱性病変	21
スケーリング・ルートプレーニング	70
使用機器・器具の種類と特徴	70
操作方法	70
ステロイド性抗炎症薬	28
スピロヘータ	24

〈セ〉

生活環境と健康	39
生活環境と生活背景の把握	76
生活歯の漂白	88
生活習慣	69
生活習慣と生活習慣病	40
生活習慣の把握	76, 78
生活習慣病と非感染性疾患〈NCDs〉	40
生活習慣病の予防	40
生活保護制度	43
正常咬合	60
生殖器系	5
成人・高齢者の歯科保健に関連する法律等に基づく保健事業	38
成人・高齢者保健	41
精神及び行動の障害	66
成人期・老年期の評価と対処法	66
成人歯科保健	38
精神鎮静法	59
精神鎮静法時の器材・薬剤の準備と取扱い	90
精神発達と行動障害	65
精神保健	41
精神保健活動の現状	41
成人保健活動の現状	41
成人保健対策	41
精神保健の意義	41
成人保健の意義と特徴	41
成長と発育	80
世界の口腔保健の現状	39
赤色病変	21
舌運動・舌圧検査	51
切削用器具・器材の取扱いと管理	88
摂食嚥下	8, 15, 31
摂食嚥下機能検査	51
摂食嚥下機能障害	80
摂食嚥下障害	64, 66
摂食嚥下障害と栄養管理	66
摂食嚥下障害と口腔管理	66
摂食嚥下障害の評価法	66
摂食介助法	66
舌清掃の方法	32
舌苔	31
接着材の種類、用途と取扱い	91

接着用材料	87
セメント系仮封材	87
セメント質う蝕	20
セメント質の増生	20
セメント質の増生とセメント粒	20
セラミックス	87
洗口剤	32, 77
染色体異常	19
染色体異常に伴う障害	66
全身管理	59
全身管理とモニタリング	93
全身疾患と歯科治療	51
全身疾患との関連	80
全身疾患の把握	51
全身疾患への対応	63
全身状態	69
全身状態の把握	85
全身性止血薬	28
全身的偶発症への対応	93
全身的な健康状態の把握	76
全身の循環障害	19
全身麻酔	59
全身麻酔時の器材・薬剤の準備と補助	90
全身麻酔薬	27
先天異常	19, 62
先天異常と発育異常	57
先天性疾患	62
全部被覆冠	56

〈ソ〉

象牙質う蝕	20
象牙質の増生	20
象牙質の増生と象牙質粒	20
創傷の治療と異物の処理	19
装置の装着	91
装置の撤去	91
増殖と修復	19
組織	3
組織活動	41
咀嚼	31
咀嚼機能検査	51
組成と配合目的	32
その他の材料	87
その他の歯科疾患・異常の予防	35
その他の清掃用具	32

損傷（顎・口腔領域）	57
〈タ〉	
体液と恒常性維持	6
体温	9
体温の調節	9
体温の変動	9
帯環〈バンド〉の種類と取扱い	91
大規模災害時の保健医療対策	38
胎児の発育	5
対象者の状態把握と対応	91, 92
対象者の把握	69
対象と活動分野	37
対象別の指導	77
対象別の指導法	78, 79, 81
体性感覚	8
体表	5
唾液検査	51
唾液腺	13, 15
唾液腺疾患	58
唾液腺腫瘍	22
唾液腺の病変	22
唾液の作用	31
多職種連携	47, 66
唾石症	22
男性生殖器系の構造	5
断面と方向用語	5

〈チ〉

地域口腔保健活動の意義	37
地域口腔保健活動の進め方	37
地域歯科保健	37
地域社会と地域保健	40
地域特性の把握	37
地域包括ケアシステム	41
地域保健	40
地域保健活動の進め方	40
地域保健に関連する法規	42
地域保健の組織と役割	40
地域保健の対象と活動	40
チーム医療	47
チーム歯科医療の考え方	85
地球環境と健康	39
着色菌・変色菌	35
中枢神経系	4, 7
中枢神経系作用薬物	27

中枢神経興奮薬	27
超音波検査	52
腸における消化と吸収	8
直接修復	88
直接修復の器材準備と取扱い	88
治療目標と治療方針	64
沈着物	31, 69
鎮痛薬	27

〈ツ〉

通院困難者への対応	64
-----------	----

〈テ〉

データの分析法	36
データのまとめ方	36
デジタル画像システム	92
撤去に必要な器具の種類、用途と取扱い	91
電気歯髄診断器の取扱い	88
テンボラリークラウン	56, 57, 89
テンボラリークラウンに用いる器材準備と取扱い	89
テンボラリーストッピング	87

〈ト〉

頭頸部の筋	13
頭頸部の自律神経系	14
頭頸部の脈管	14
頭部エックス線規格写真のトレース	90
動揺度検査	70
特殊感覚	8
特殊感覚器の構造	4
特殊成分と配合目的	32
毒薬	27
塗布法の分類と術式	71

〈ナ〉

内因	19
内臓感覚	8
内分泌	8
内分泌器官の機能	8
内分泌器官の構造	5
内分泌系	5

〈ニ〉

肉芽組織と器質化	19
二次救命処置	59, 93
日本薬局方および局方医薬品	27
乳歯、幼若永久歯の特徴	61
乳幼児の口腔保健	38
ニューロンの機能	7
尿の生成と体液の調節	8
妊産婦・乳幼児の歯科健康診査と保健指導	38
妊産婦の口腔保健	38
認知および精神状態の把握	76

〈ネ〉

年金制度	43
粘液嚢胞	22

〈ノ〉

脳神経	14
嚢胞	22
嚢胞（顎・口腔領域）	58
嚢胞摘出手術・嚢胞閉塞手術	59

〈ハ〉

歯	69
歯・口腔の外傷	35
歯・口腔の機能	31
歯・口腔の健康状態の把握	69
歯・口腔の健康診査と事後措置	37
歯・口腔の健康診断と事後措置	38
歯・口腔の発育と変化	31
歯・口腔の保健教育と保健指導	38
歯・歯周組織の検査	70
歯・歯周組織の構造	14
歯・歯周組織の発生	14
バイオフィームとしてのプラーク	25
バイオフィームとバイオフィーム感染症	25
バイオフィームの形成機序	25
廃棄物処理	39

バイタルサイン	59
バイタルサインと生理的特徴	61
バイタルサインの把握	93
排尿	8
排尿の仕組み	8
排便	8
胚葉	5
培養法	22
ハイリスクアプローチ	75
配慮を要する者への指導	77, 78, 79, 81, 85
バキュームテクニック	85
白色病変	21
8020 運動	37
発音・構音	31
発音・構音障害	65, 80
拔牙	59, 90
拔牙および術中・術後の局所的偶発症	59
拔牙後の注意	90
拔牙創の治療	21
拔牙用器材の準備と取扱い	90
発生	5
発声・構音	15
発達期の評価と対処法	66
歯と歯周組織	14, 15
歯の形成	31, 61
歯の形態	14
歯の交換	31, 61
歯の硬組織検査	51
歯の硬組織疾患の種類と検査法	53
歯の生理	15
歯の喪失	31
歯の組成	15
歯の損耗	35
歯の発育異常	20
歯の漂白	88
歯のフッ素症に関する指標	36
歯の萌出	31, 61
歯ブラシの構成と種類	32

〈ヒ〉

非感染性疾患	78
被災地での歯科保健活動	38
非ステロイド性抗炎症薬	28
微生物学的検査	51
微生物と口腔環境	25

微生物の病原性	23
肥大と過形成（増生）	19
必要な器材・薬剤の準備	91, 92
泌尿器系	5
泌尿器系の構造	5
被曝量の測定	92
病因論	19
評価	70, 71, 80, 82
評価（歯科衛生士業務）	47
評価と計画	71
病原微生物とプリオン	24

〈フ〉

フォーハンド	85
副鼻腔	13
不正咬合	60
不正咬合に関する指標	36
不正咬合による障害	60
不正咬合の影響	35
不正咬合の原因と種類	35
不正咬合の予防	35
不正咬合の予防方法	35
付着物	31, 69
フッ化物歯面塗布	71
フッ化物洗口	71
使用薬剤の種類と取扱い	71
適応症	71
実施場所と洗口方法	71
フッ化物によるう蝕予防	34
フッ化物の摂取と代謝	34
フッ化物の毒性	34
フッ化物の分布	34
フッ化物配合歯磨剤	71
フッ化物の種類	71
使用法	71
物質代謝	6
部分被覆冠	56
プラーク・歯石の検査	70
プラークコントロールの意義	32
ブラケットの種類、用途と取扱い	91
ブラッシング	32
ブラッシングの為害作用	32
ブラッシング法と特徴	32
プリオン	24
ブリッジ	57
ブリッジの構成	57
ブリッジの特徴	57

ブローピング	70
プロビジョナルレストレーション	56, 57, 89
プロビジョナルレストレーションに用いる器材準備と取扱い	89
分類	32

〈ヘ〉

平滑筋	7
平均寿命	39
平均余命	39
ペリクルの形成	31
ヘルスプロモーション	37
変性	19

〈ホ〉

法規	42
縫合	90
縫合用器材の種類と準備・取扱い	90
防護の実際	92
放射線治療	59
放射線の基礎知識	52
放射線の人体への影響	92
放射線の人体への影響と防護	92
萌出の異常	20
法の分類	42
訪問診療	64, 85
保健管理	41
保健管理体制と作業管理	41
保健教育	41
保健行動	75
保健所	40
保健所と市町村との連携	37
保健所の歯科保健業務	37
母子歯科保健	38
母子歯科保健の意義	38
保湿剤	77
母子保健	41
母子保健活動の現状	41
母子保健対策	41
母子保健の意義と特徴	41
保存修復処置後の不快事項とメインテナンス	53
保存修復治療	53
保存修復治療の前準備	53
保存修復法の種類と特徴	53

保存方法	27
補体	24
保定	60
保定装置	61
補綴装置の装着	89
補綴装置の維持・支持・安定	56
補綴治療の基礎	56
補綴治療の種類と材料	56
補綴治療の流れ	56
ボビュレーションアプローチ	75
ポリカルボキシレートセメント	87
ホルモン	8

〈マ〉

麻酔	59, 90
末梢神経系	4, 7
末梢神経系作用薬物	27
麻薬	27

〈ミ〉

味覚	15, 31
味覚検査	51

〈ム〉

無機質	6
-----	---

〈メ〉

メインテナンス	55, 57, 64, 70, 71
メインテナンスと修理	56
滅菌法	25, 86
免疫	23, 24
免疫異常と移植	20
免疫機構	23
免疫の種類	23
免疫不全症候群	20

〈モ〉

目的	70, 71
模型用材料	86
モデリングコンパウンド	87
モニタリング	59, 93
問題の明確化	47



2017 年 4 月 3 日現在

平成29年版 歯科衛生士国家試験出題基準 正誤表

このたびは「平成29年版 歯科衛生士国家試験出題基準」(2017 年 3 月 31 日第 1 刷発行)をお買い上げいただき誠にありがとうございました。上記書籍につきまして以下の修正がございましたので、ここに訂正しますとともに、深くお詫び申し上げます。お手数ですがお手元の書籍の訂正をお願い致します。

頁	訂正項目	誤	正
47	6 チーム医療	プロフェッショナルリズム	プロフェッショナリズム
59	4 全身管理とモニタリング	〈SPO ₂ 〉	〈SpO ₂ 〉
93	2 全身管理とモニタリング		
102	索引 〈欧文〉		
70	3 計画	A 歯周予防計画	A 歯周病予防計画
90	V 口腔外科治療時の診療補助	7 患者管理	6 患者管理

平成 29 年版 歯科衛生士国家試験出題基準

2017 年 3 月 31 日 第 1 版・第 1 刷発行

編 一般財団法人 歯科医療振興財団
発行 一般財団法人 口腔保健協会

〒170-0003 東京都豊島区駒込 1-43-9
振替 00130-6-9297 Tel. 03-3947-8301(代)
Fax. 03-3947-8073
<http://www.kokuhoken.or.jp/>

乱丁、落丁の際はお取り替えます。

印刷・教文堂／製本・要千製本

©Shikairyo shinkou zaidan, 2017. Printed in Japan [検印廃止]

ISBN978-4-89605-334-0 C3047

〈ヤ〉

薬液消毒	86
薬事に関連する法規	42
薬品の管理	85
薬物動態	26
薬物の作用機序	26
薬物の適用方法	26
薬物の取扱い	27
薬物の副作用・有害作用	26
薬物の併用による相互作用	26
薬物の連用	26
薬物療法の種類	26
薬用成分と配合目的	32
薬理作用に影響を与える因子	26
薬理作用の基本形式	26
薬理作用の分類	26
薬効成分と配合目的	32

〈ユ〉

有機質	6
有効成分と配合目的	32
有床義歯	56
有床義歯装着時の器材と準備	89

〈ヨ〉

要介護者・障害者への歯科保健	38
----------------	----

要介護者歯科保健	38
要介護者の食事介助	79
要介護者保健福祉対策	41
予防の考え方と適用	39

〈ラ〉

ライフスタイル	40
ライフステージと薬物	26
ライフステージに対応した指導	77, 78, 79, 81
ライフステージの特徴	69
ライフステージ別の口腔保健の課題	37

〈リ〉

リケッチア	24
リスク評価と安全管理	66
リハビリテーション	80
リン酸亜鉛セメント	87
リンパ系	3
リンパ循環	7

〈レ〉

冷温覚	31
-----	----

レーザー装置	85
レジンセメント	87
連結装置	56

〈ロ〉

老化	5, 9, 15
老化に伴う機能変化	9
老化の機序	9

〈ワ〉

ワイヤーの種類、用途と取扱い	91
我が国の社会保障制度	43
ワックス	87

〈欧文〉

AED の取扱い	93
SPO ₂	59
SPT	55
NCDs	78
MRI	52
supportive periodontal therapy	55
Tooth Wear	35